

News Letter

Number 18

日本獣医解剖学会報

September 21th, 2001

打って出るべきか、 それとも閉じこもるべきか？

会長 林 良博

「遠山プラン」が6月に公表されて以来、これまで静かに振る舞っていた学長先生も、忙しそうに動きだしたと報じられています。こんな時こそ、あたふたせずにじっくりと方向を見定めるべきだとわたしは思いますが、それを口に出していえば「東京大学にいるからそんな悠長なことが言えるのだ」という批判が間違いなく返ってくるでしょう。

先日、東京大学の広報誌「淡青」から受けたインタビューで、以下のような話しをしました。

農学に携わる教職員・学生は、「どんな生命にも必ず始まりと終わりがあること」を知っておりますので、どのような波乱万丈の世紀にあろうとも、右往左往せずに落ち着いた対応を好みます。落ち着いているということは、これも農学に関係する者のほとんどが知っているように、蛸壺に閉じこもるということでは決してありません。

農学は、おなじように「生産」に携わることによって人類に貢献する工学分野の「造る生産」makingとは異なり、「育てる生産」growingという分野を担っておりますので、「育つ対象」である生き物の自立性・自主性を無視できません。そのために農学は、遅滞として発展しない「愚鈍」な学問のようにみなされることがありました。しかし、この歩みの遅さによって、本来人類が継承すべきものを失わないで済んだ面があり、それが皮肉にも21世紀に農学が期待される理由の一つかもしれません。トラック競技でいえば、農学は「1周遅れの先頭ランナー」になったということです。

これには良い点と問題点があります。良い点としては、20世紀、とくにその後半において自信を喪失していた感のある農学が、セルフ・エスティーム（自尊心というよりも、「自分もそんなに悪くはない」という程度の自尊感情）を取り戻したことです。学部定員が300名の農学部の進入学生が、1991年に208名であったのに対し、2000年には300名に達したという事実がそれを如実に物語っています。問題点としては、やはり一周遅れですので、全国的な期待に応えることができるだけの実力を有しているのか、今後問われることとなります。（以下、略）

ところで、従来のように蛸壺に閉じこもっていたのでは、蛸壺とともに廃棄されてしまうことは火を見るより明らかです。しかし特攻隊のように打って出たならば、もっと早期に悪い方向で決着がついてしまうでしょう。進むのも地獄、退くのも地獄という状況が、いまの日本の学術全体を覆う雰囲気といえるかもしれません。

さて、このような閉塞状況のなかで何をするかですが、こんな時こそ「楽観主義」的に振る舞うことが大切だとわたしは思います。ものごとを深刻に考えてちからを発揮する人も稀にはおりますが、多くの人は楽になったときの方がトータルにちからを発揮します。「こうしなければいけない」と言われて行動するよりも、「こうしたい」と考えて行動するほうが楽しいし、自由な発想が生まれます。

結論として、打って出たい人は打って出る、瞑想したい人は瞑想しているということです。

学問の基にある解剖学は、封建社会から現代社会に移行した場合、長男のような不利益を被ることもあります。長男らしいおおらかさを大切にしていれば、いつか良いこともあるでしょう。長男には長男らしい「したたかさ」もあるのですから。

(平成13年9月3日記)

◇ 第132回 日本獣医学会 ◇

(2001年10月6日～8日) 会場: 岩手大学

日本獣医解剖学会シンポジウム

I: 「生殖科学の最前線」 WS 01-01～05

10月7日(日) 13:00～16:30 第9会場

コーディネーター: 佐藤英明(東北大)、谷口和之(岩手大)

WS01-01 岡村 裕昭(生物資源研・神経内分泌)

反芻動物におけるGnRHパルス状分泌活動の調節機構

WS01-02 金井 克晃(東京大・獣医解剖)

生殖腺形成とインテグリン結合蛋白

WS01-03 種村 健太郎(理研・脳センター・アルツハイマー病研究チーム)

半数体形成時における寿命設定機構の可能性

WS01-04 眞鍋 昇(京大院農・生体機構)

卵胞の選択的死滅を制御する分子機構: 顆粒層細胞の新規細胞死およびデコイ受容体

WS01-05 本道 栄一(山口大・家畜解剖)

着床誘導の分子機構

WS01-06 山口 高弘(東北大院・農・機能形態)

乳腺機能と乳腺免疫

II: 「解剖学新時代」

10月8日(月・祝) 13:00～15:00 第9会場

(遺体解剖学継承委員会 遠藤寿紀 国立科学博物館)

遺体解剖学継承委員会では解剖学の現状と将来像に関して、皆様のアンケートを行いました。その回収結果をもとに、肉眼解剖学に対する理念と施策を提唱したいと思えます。“解剖学のいま”を、直視してみましよう。

<第10回 獣医解剖サテライトフォーラム>

10月8日(月) 10:30～12:00 第9会場

座長: 大迫誠一郎(国環研)、加納 聖(岩手大)

山内啓太郎(東京大学大学院農学生命科学研究科)

「骨格筋の再生～stem cellとしての筋衛星細胞～」

一般講演 (ポスターセッション)

10月6日(土) (9:00-11:30) ポスター会場(体育館)

ポスター番号 筆頭者氏名(所属・略称): 演題の順で記載します。

PS3001 古谷 累(宇都宮大・機能形態): ウサギ各耳介筋を支配する顔面神経核細胞群の局在性について

PS3002 胡 満(名古屋大・動物形態情報): ヒヨコの視蓋-卵円核投射について

PS3003 蛭薙 観順(名古屋大・博物館): ハトとウズラの外側中隔における髄液接触ニューロンの形態

PS3004 平田 真貴子(帯広大・家畜解剖): ウシの脊髄と脊髄神経節におけるカルシトニン遺伝子関連ペプチド神経の免疫組織化学的分布

PS3005 齋藤 正一郎(愛媛大・第一解剖): ラットの一次嗅覚系における神経栄養因子プロサポシンの局在について

PS3006 中田 文恵 (鳥取大・獣医解剖) : ニワトリ胚仔Glycogen BodyのLDH活性について
PS3007 神谷 新司 (日獣大・獣医解剖) : 動物のポリグルコサン小体はユビキチン化される
PS3008 種村 健太郎 (理研・脳センター) : 神経原線維変化を呈する脳老化モデルマウスの解析
PS3009 木本 慶太 (北海道大・獣医解剖) : ウマ心膜における神経分布のホルマウント標本による観察
PS3010 山本 欣郎 (岐阜大・家畜解剖) : F344/Nラットの喉頭における神経支配の加齢変化
PS3011 中村 道子 (岩手大・臨床獣医) : 再生軸索伸長度を推定する新たなトレーサーとしての豚赤血球凝集性脳脊髄炎ウイルス(HEV)の有用性
PS3012 福田 勝洋 (名古屋大・生命農学) : マメジカ下顎間腺の光顕および電顕による観察
PS3013 小菅 教仁 (日本大・獣医解剖) : ネコの趾球におけるエックリン腺上皮の糖質組織化学的研究
PS3014 藤野 健 (東京都・老人研) : ワオキツネザル肩の筋: 一機能解析理論とそれに基づく解析
PS3015 森 陵一 (昭和大・口腔解剖) : ウシ、ブタ、ヒツジにおける長骨の葉状骨から骨単位への移行に関する比較組織学的観察
PS3016 伊豆 弥生 (日獣大・獣医解剖) : ネコの骨端軟骨板におけるレクチン組織化学的研究
PS3017 保坂 善真 (酪農大・獣医解剖) : ウマ浅指屈筋腱におけるアポトーシス発現
PS3018 山本 悦子 (酪農大・獣医解剖) : ウマ浅指屈筋腱の加齢性変化III: コラーゲン細線維とGAG、MMPの関連性について
PS3019 菅野 恵美 (日本大・獣医解剖) : ネコの喉頭腺における糖質の光顕ならびに電顕組織化学的研究
PS3020 今別府 和成 (宮崎大・家畜解剖) : ウシの房室弁交差心臓(cross-heart)の解剖学的観察
PS3021 EL-SHARABY ASHRAF (大阪大・口腔解剖) : Immunohistochemistry for neural marker proteins in the differentiating conduction and innervation tissue of the camel heart.
PS3022 原 由貴子 (岩手大・獣医解剖) : ミシシippアカミミガメの嗅覚受容器におけるレクチン組織化学的研究
PS3023 添田 聡 (日獣大・獣医解剖) : ニホンイモリの嗅覚系におけるニューロフィラメント68の発現に関する研究
PS3024 二唐 崇 (岩手大・獣医解剖) : 糖尿病ラットの嗅球に関するレクチン組織化学的研究
PS3025 菊池 信貴 (麻布大・獣医解剖第一) : イヌ眼球毛様体の形態計測学的検討
PS3026 矢野 智砂 (北里大・獣医解剖) : ネコ眼球毛様体上皮細胞に関する電子顕微鏡的研究
PS3027 伊藤 満 (帯広大・家畜解剖) : ウシの消化管におけるc-kit陽性細胞の分布
PS3028 竹内 崇師 (島根医大・動物実験施設) : ラット小腸の粘膜上皮基底膜における小孔の分布
PS3029 幅田 功 (日本大・獣医解剖) : シバヤギの口唇腺におけるコロイド金レクチンの結合性
PS3030 武藤頭一郎 (北里大・獣医解剖) : 北京ダック臍島における介在導管上皮細胞
PS3031 長竿 淳 (北里大・獣医解剖) : ストレプトゾトシン投与ラットにおける臍島内分泌細胞および介在導管上皮細胞に関する形態学的研究
PS3032 保田 昌彦 (麻布大・獣医解剖第二) : In vitroにおいてactivin Aが胎子臍島B細胞に及ぼす影響
PS3033 山本 雅子 (麻布大・獣医解剖第二) : 妊娠中のラットに投与したコプラナPCBsが生後の副腎内分泌機能に及ぼす影響
PS3034 麻生 久 (東北大・機能形態) : ウシ乳腺上皮細胞株(BMEC細胞)の樹立と乳汁合成機構
PS3035 前田 倫江 (鹿児島大・家畜解剖) : NOD(Non-Obese Diabetic)マウスの腎臓に関する組織学および組織計測学的研究
PS3036 矢吹 映 (鹿児島大・家畜解剖) : 雌マウス腎臓の近位尿管上皮のライソゾームに含まれる糖鎖構造の解析

PS3037 山口 美鈴 (京都大・生体機構) : 遺伝性腎疾患(ICGN)マウスの腎病態進行に伴う貧血の推移と特徴
PS3038 クルザナ マリア ベリャ C. (帯広大・家畜解剖) : 水牛(*Bubalus bubalis*)の精巣におけるレクチン結合パターン
PS3039 渡邊 直人 (帯広大・家畜解剖) : ミンククジラ(*Balaenoptera bonaerensis*)胎子精巣の細胞骨格タンパク質の免疫組織化学的分布
PS3040 百々 さやか (岩手大・獣医解剖) : ゴールデンハムスター精巣におけるSmad6、Smad7の発現
PS3041 横田 泉 (日大・獣医解剖) : ウサギの精巣上体管上皮におけるシアロ糖タンパク質の局在
PS3042 石川 武史 (麻布大・獣医解剖第一) : 犬の精巣上体における炭酸脱水酵素アイソザイム(CA-II)の局在について
PS3043 江 金益 (東北大・農) : Angiogenic changes of microvasculature during follicular development in porcine ovaries
PS3044 眞鍋 昇 (京都大・生体機構) : ブタ卵胞顆粒層細胞の細胞死におけるシステインプロテアーゼ系細胞内シグナル伝達系の関与
PS3045 中山 瑞穂 (京都大・生体機構) : ブタ卵胞顆粒層における腫瘍壊死因子 α の細胞内シグナル伝達因子の発現
PS3046 山田 治 (生研機構) : 妊娠初期におけるウシプロラクチン関連タンパク質-Iの発現について
PS3047 ブディビトジョ テグ (帯広大・家畜解剖) : 非妊娠および妊娠ウシの子宮頸におけるガストリン放出ペプチド(GRP)の免疫組織化学的分布
PS3048 中村 織江 (山口大・家畜解剖) : 子宮NK細胞の移植子宮片における分化
PS3049 井原 かおり (山口大・家畜解剖) : 妊娠子宮におけるパーフォリンとMHCクラスI分子の生殖学的役割
PS3050 難波 泰治 (山口大・家畜解剖) : 子宮NK細胞欠損マウスにおける血管構築の異常
PS3051 中川 裕美子 (山口大・家畜解剖) : 子宮NK細胞とパーフォリンと流産
PS3052 尼崎 肇 (日獣大・解剖) : マウス口蓋ヒダ形成過程に発現する3型および6型炭酸脱水酵素の組織内局在
PS3053 金井 正美 (都臨床研) : キメラ個体を用いたSox17欠損ES細胞の自律的分化能の解析
PS3054 野馬 隆志 (東京大・獣医解剖) : *Drosophila*生殖質構成因子fafのマウス相同遺伝子Dfrfxは生殖細胞系列においてステージ特異的に発現する
PS3055 池田 学 (岩手大・獣医病理) : イシイルカ(*Phocaena dalli dalli*)のリンパ組織における免疫組織学的研究
PS3056 北川 浩 (神戸大・自然科学) : ラット小腸絨毛円柱上皮細胞のアポトーシス発現と免疫グロブリンの再吸収
PS3057 森 麻江 (北里大・獣医解剖) : 肝外胆管結紮ニワトリにおける胆管増生の組織学的研究
PS3058 野地 智法 (東北大・機能形態) : 乳腺上皮細胞におけるサイトカイン産生能
PS3059 権田 辰夫 (島根医大・動物実験) : 高脂肪食負荷ラットにおける低分子キトサンの肥満抑制効果
PS3060 松元 光春 (鹿児島大・家畜解剖) : ミニブタの主要臓器におけるPSPの局在

【日本獣医解剖学会理事会】

10月7日(日)11時~12時 第5会場
理事の先生方のご出席をお願いします。総会の議題について事前協議などを行います。

【日本獣医解剖学会総会】<時間厳守で御参集を!>

10月7日(日) 16時30分~17時; 会場: 教育学部1号館第9会場

- 議 題 (予定)
- ・名誉会員の推薦(会長)
 - ・実習用動物の取り扱いについて(神田)
 - ・奨励賞選考方法内規について(木曾)

- ・奨励賞の発表（谷口）
- ・春の獣医学会の開催案内（山野）
- ・その他

【日本獣医解剖学会懇親会】

日時：平成13年10月8日（月：体育の日）15：30 総合受付前集合。出発は、学会プログラム終了後で、送迎バスによる移動となります。また、10月9日は盛岡駅まで、送迎バスでお送り致します。

場所：八幡平ハイツ（岩手郡松尾村八幡平温泉郷）tel:0195-78-2121

(<http://www.kinrou.or.jp/hachimantai-heights/>)

内容：温泉は5：00～24：00まで自由に入浴可。浴槽は男女とも同じ大きさ。料理は特別料理、お酒は二時間飲み放題。二次会ではスナックとカラオケルームを別途用意。昭和天皇宿泊の特別室も手配済み。

参加費：15,000円（宿泊費、宴会代および翌日の朝食代も含む）

◎ 日本獣医解剖学会奨励賞第6号 ◎

東京農工大学での学会発表において神田、山田、谷口および木曾の4名の選考委員会で慎重に審査の結果、下記のとおり決定されましたのでご案内します。（多分、総会か懇親会の席で盾を贈呈すると存じます）

受賞者：京都大学大学院 農学研究科 応用生物科学専攻

生体機構学分野、修士2回生（来年度、博士課程へ進学予定）

山口 美鈴（やまぐち みすず）

受賞対象演題：遺伝性腎疾患（ICGN）マウスにおけるエリスロポエチン産生

於：東京農工大学、平成13年4月6日

山口さん、おめでとうございます！ 今後のご発展をお祈りします。

◎ ここに日本獣医解剖学会奨励賞選考方法内規（案）を公表し、会員の皆さんのこの案に対するご意見と理解をいただきますとともに、若い皆さんの「今度は、おれが、または私がもらってやる」との意欲を期待する次第です。現在はこの案に準じて選考を行っております。

この案に関してご意見などがありましたら、出来るだけ早く、木曾先生へお申し出ください、検討いたしまして理事会を経て総会でご承認いただく手続きを進めたいと存じます。よろしくお願ひします。

日本獣医解剖学会奨励賞選考方法内規（案）

【選考委員会】

1 日本獣医解剖学会は会則第3条の5に基づいて、日本獣医解剖学会奨励賞（獣医解剖奨励賞）選考委員会を置く。選考委員会は、春期・秋期開催の各学会において、獣医解剖奨励賞の選考を行う。獣医解剖奨励賞は原則的に1件とする。

【選考委員】

2 選考委員会委員長は春期・秋期開催の各学会における獣医解剖学会主催者の中から日本獣医解剖学会長（学会長）が任命する。日本獣医解剖学会副会長（副学会長）2名は選考委員とする。選考委員長および2名の選考委員（副会長）の合議により、適切と思われる1～2名の選考委員を加えることが出来る。

【応募要領の告示】

3 選考委員長は奨励賞選考が行われる旨、日本獣医学会会誌告知板に告示する。その際、次項4の獣医解剖奨励賞対象者の要件もあわせて掲載する。

【獣医解剖奨励賞対象者】

- 1) 獣医解剖学の進歩に寄与する研究を行い、なお将来の発展に期待しうる若手研究者であること。
- 2) 大学および大学院に所属する者にあつては、大学院生・研究生あるいはポスドクとして研究に従事している者。ただし他の機関において定職を持ち、大学院等に所属する者（社会人あるいは留学生）は次項に準ずる。
- 3) 国公立および民間研究機関・企業に所属する者にあつては、学会開催月の1日において35歳の誕生日に達しない者。但し、留学生はこの限りではない。
- 4) 日本獣医解剖学会に発表する本人であること。

5) 日本獣医解剖学会に、2年以上の会員歴を有し、その回も含めて2回（筆頭）以上発表経験のある者。

上記対象者に該当し、奨励賞を希望する者は、選考委員長に講演要旨および対象者である旨明記した用紙（略歴を含む）を送付する。

【予備選考】

5 選考委員長は、対象者であることを確認する。

【本審査】

6 選考委員は、候補者全員の発表に必ず立会い、審査用紙（別紙1）に従って評価点を付ける。

【獣医解剖学奨励賞の決定】

7 選考委員長は、候補者の最終演題発表終了後、審査用紙を迅速に回収し、この評価を集計し、評価点合計の最も高い1名を獣医解剖奨励賞受賞者として決定すると同時に、学会長に審査結果を通知する。

【獣医解剖学奨励賞の授与】

8 学会長は、原則として総会時に、あるいは懇親会時に獣医学奨励賞の授与を行う。

【選考経過の公表】

9 選考委員長は、ニューズレターに審査の経過を公表する。

【付記】

この内規は平成14年度春季学会（第133回日本獣医学会）より適用する。

別紙1

日本獣医解剖学会奨励賞審査用紙

審査委員長 _____

審査は下記の項目を勘案して行い、評価は総合点で記入してください。総合点は1から5点とし、5点が最優秀点で、1点が最低点です。評価は絶対評価とし、すべての演題が優れていないと判断した場合はすべて1、すべて優れていると判断した場合はすべて5でも結構です。なお、選考委員は一律な評価を行ってください。

候補者番号 1. 候補者名

演題名

評価 1) 発表内容 _____点 2) 発表の技術 _____点

（以下、候補者番号2、3と続く）

勘案すべき事項

1 発表の内容

1) 演題名は発表の内容をよく表しているか。2) 発表内容は論理的かつ明確で、結論は妥当か。3) 内容は独創性が高いか。4) 発表のあった分野への貢献度は高いか。5) 研究の将来性と発展性があるか。

2 発表の技術

1) 研究の目的を明確に述べたか。2) 材料と方法を十分かつ簡潔に述べたか。3) 結果は明確に述べたか。4) 結論を簡潔かつ明確に述べたか。5) 聴衆の興味を引いたか。質問には適切に応えたか。6) スライドあるいはポスターは明瞭かつ簡潔か。（以上）

◆ 実習用動物の取り扱いについて（第2報） ◆

東京農工大学・家畜解剖学・神田尚俊

本年4月の獣医解剖学会にて、農工大学の解剖実習（ウシの放血と殺）に対し、動物愛護団体2団体（地球生物会議および JAVA）からクレームがあった旨の報告をしましたが、その後の経過について報告します。6月には、両団体より電話にてその後の対応について問い合わせがあり、安楽死の方法の見直しをしている旨の返事をしました。農工大学としては、現在「動物実験倫理委員会」において規則の見直しをしており、今後はこの委員会の承認を得て実習を行い、クレームが発生したときは、大学として「学生部」が対応することが確認されました。規則改訂の内容はまだ検討中ですが、本年度のウシの解剖実習では、麻酔法を改善して安楽死になる方法を採用する計画です。また学生には実習前、事前に安楽死について十分説明し、誤解等が生じないようにする必要があります。本件との関連で、獣医学科宛に投書が4件あり、いずれも動物愛護の観点からこれまでのやり方の見直しを求めており、本件がインターネットを通して知られるようになった為ではないかと推測されます。インターネットの「検索サイト」から、「獣医学」、「獣医師」、「教育」、「実習」をキーワードとして検索すると、獣医師、あるいは獣医学教育でどのよ

